

『つながる世界』～知ろう考えよう、世界と日本のこと～

2017年6月 国際交流・図書

日本のフランスパンは世界一！～パンが主食になる日がやってくる？～

前回のギョーザに続き、今回はパンです。1日3食のうちパンが主食になるのはどのくらいですか。ご飯は？最近、各種メディアの食レポでパン屋の紹介が増えたと思いませんか。どうやらパンはブームのようです。

『なぜ日本のフランスパンは世界一になったのか』は、日本のパン文化の歴史を書いたものですが、読めばパン屋巡りと食べ比べがしたくなる本です。有名なパン屋のルーツもわかり、「これは神戸発祥のフランス系ね」というように、歴史を噛みしめながらパンも噛みしめられます。

日本のパンは食パンに菓子パン、惣菜パンのようにとてもバリエーションが豊富です。様々な異文化の形を変え、うまく生活に取り込んできた日本文化を象徴しているともいえます。ところで、私が海外で食べたパンでおいしかったのはチェコやドイツのスーパーで買った、日本人には少しかためですが噛むと小麦の味がする素朴なパンでした。オーストラリアやトルコといった小麦の産地のパンもおいしかったです。

小麦粉も鮮度が大切です。日本でも国産小麦にこだわっているパンは、噛むほどに小麦の味を感じます。津山産の小麦粉が手に入るようになった今、津山小麦のパンを焼いてみたいと思っています。また、米を主食としてきた日本では、米粉の利用もこれから進むのではないのでしょうか。米粉パンは既に店頭には並んでいます。

《ひとくちメモ》「パン」は何語でしょうか？英語ではありませんね。フランスパンのようにフランス語でもありますが、日本の場合は南蛮由来のポルトガル語です。



哲学する子どもたち～フランスの中高生は古典と小論文が得意？～

海外の高校生がどんな学校生活を送っているか、興味はありませんか。フランスで子育てをする日本女性が書いた『哲学する子どもたち』を読むと、両国の教育事情の違いが見えてきます。皆さんにとって興味深いのは大学入試ではないでしょうか。

世界の大学入試のシステムは大きく2つに分けられます。日本のような「大学入試」とフランスのような「高卒試験」です。後者の場合、試験の成績をそのまま大学入試に使うので個々の大



学の入試はありません。それなら日本の「センター試験」のようなものかと思いきや「バカロレア」と呼ばれるこの試験、実はなかなか骨太なものなのです。

まず、試験はすべて論述式。日本の小論文入試のようなものと考えてください。さらに受験科目は必須のものだけで11もあり、その他に高得点を取れば成績に加算される選択科目もあります。つまり日本のように科目をしぼって受験勉強するわけではなく、高校のほとんど全ての授業がそのまま大学入試につながるのです。

印象的だったのは、国語で現代作家の文章が出題され、高校生の不評を買ったという話。古典を徹底的に読むフランスの生徒にとって「存命中の作家なんて知るか！」という感じだったそうです。センター試験に小林秀雄の評論が出た時の「現代文なのに古文が出た！」という日本の高校生の反応と対比されていました。

もし、皆さんがフランスの高校生と何か議論することになったら、相手はかなり手強いかもしれません。グローバル社会で生きるとはこういうことでもあるのです。《ひとくちメモ》入試に向けてレベルの高い小論文を書きたいと思っている3年生にこの本はおススメです。国語の先生も思わず参考にしたくなるような内容です。

日本を遠く離れて～ハワイの日系人と戦争～

97年に『海峡の光』で芥川賞をとった辻仁成さんは、パリで中学生の息子を育てるシングル・ファーザーとしても知られています。辻さんは『白仏』という作品でフランスでも歴史のあるフェミナ賞を99年に受賞しました。

『日付変更線(上・下)』は現代のハワイと第二次世界大戦中のヨーロッパ戦線を舞台にした小説で、戦後70年にあたる2015年に出版されました。辻さんの息子のように海外で暮らす子どもは、日本に関する歴史を私たちとは少し違う形で、それぞれの国の学校で学ぶことになります。

ハワイには多くの日系人がいます。真珠湾攻撃の後、アメリカの日系人は強制収容所に送られました。そんな時、合衆国への忠誠心を示すため軍に志願した日系人によって組織されたのが「442部隊」でした。ヨーロッパ戦線でイタリア軍やドイツ軍と戦い、最も多くの勲章をもらった部隊です。それはつまり、日系人が合衆国の楯として最前線で戦い、きわめて多くの死傷者を出したということです。

この作品は恋愛・歴史・ミステリーなど様々な要素を持った小説です。辻さんはなぜ戦後70年にこの作品を発表したのか。それは日本を遠く離れて暮らす人間は様々な形で日本の歴史と向き合わざるを得なくなるからであり、また、遠く離れているからこそ見えてくるものがある、ということではないでしょうか。

